

★ちちのこ
くまのこ



日本の昔話

イラスト 松村 麻郁

むかし、あるところに、

じいさまとばあさまがおりました。

ある日、じいさまは山へ

しばかりにいきました。

すずめ「ちゅんちゅん、ちゅちゅちゅ」

すると、「わのすずめがとんできて、

木につるしておいたべんとうを

たべてしまいました。

じいさま「ぼちぼちめしにするかのう」

と、じいさまがべんとうのふたをあけると、



じいさま「おや」

すずめ「へっ、へっ、へっ…」

べんとうばいなかの中で、

すずめがねておりました。

じいさま「なんとめんこいすずめじゃ」

じいさまは、すずめに「おちゃん」という

なまえをつけて、たいそうかわいがりました。



じいさま「おちよん。ほれ、

ごはんだよ」

すずめ「ちゅんちゅん」

じいさま「うまいか？そうか。

ほら、もっとおたべ」

すずめ「ちゅんちゅん。」

ばあさまは、おもしろくありません。

ばあさま「ふん。すずめのぶんちゅんが

米こめのめしをくうとは、ぜいたくなやつだよ」



その日^ひも、じいさまは

しばかりにでかけました。

ばあさまは、せんとくをしよう^とと

お米^{こめ}をにてせんとくのりを

つくりました。

ばあさま「いいかい、おちよん。

となりのねこにのりを

たべられないように、

ばんをしておくんだよ」

ところが、ばあさまが川^{かわ}へ

せんとくにいくと、



おちよん「ちゅんちゅん、

ぺろ、ちゅん…」

おちよんは、のりをぺろりと

たべてしまいました。

ばあさま「ややや！ おい、おちよん、のりはどうした？」

おちよん「となりのねこがたべました」

ばあさま「うそをつけ！ ほれ、おまえの口くちに

のりがついていているじゃないか！

よくも、だいじなのりをくっつけてくれたな！

こうしてやるわー！」

(チヨキーン)

おちよん「ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅーん！」

おちよんのしたを、はさみできってしまいました。





おちよん「ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅ…」
(バタバタバタ…)

ばあさまがおちよんのしたを
きったときいて、じいさまは、
つぎの日、おちよんをさがしにでかけました。

じいさま「すずめのおおやどはどこかいな
したきりおちよんはどこいった」

じいさまがあるいていくと、牛^{うし}あらいに
あいました。

じいさま「牛^{うし}あらいどん、ここを

したきりすずめがとおらなかつたかい」

牛^{うし}あらい「おお、とおった、とおった。

牛^{うし}をあらったこの水^{みず}をのみほしたら

おしえてやろう」

じいさま「ぐび、ぐび、ぐび、ぐび、はあ

牛^{うし}あらい「ははは、よし。

このさきに、馬^{うま}あらいがいるから

きいてみるよらう」



じいさまがあるいていくと、
馬うまあらいにあいました。

じいさま「馬うまあらいどん、ここを

したきりすずめがとおらなかつたかい」

馬うまあらい「おお、とおった、とおった。

馬うまをあらったこの水みづをのみほしたら

おしえてやろう」

じいさま「べび、べび、はあー！」

馬うまあらい「よし。このさきの

たけやぶにとんでいったぞ」





じいさまがあるいていくと、
大きなたけやぶの中なかにいえがありました。

(トン、トン)

おちよん「じいさまか、ばあさまか」

じいさま「じいじゃ、じいじゃ」

おちよん「じいさまなら、おはいりください」

いえの中なかにはいると、きものをきたおちよんが
でむかえてくれました。

じいさま「おお、おちよんや、すまなかつたな。

ばあさまがおまえのしたをきったというから、
あやまりにきた」

おちよん「じいさま、よくきてくれました。

さあさあ、めしあがってください」

おちよんは、じいさまに
 金のちやわんに
 金のはしで、
 白いごはんや
 おかしらつきの魚を
 ごちそうしました。
 そして、すずめたちの
 うたとおどりが
 はじまります。



(あ、それ)

ちゅんちゅんちゅん(それ)

ちゅんちゅんちゅん(それ)

ちゅんちゅんちゅんかちゅん

ちゅんかちゅんかちゅん

(あ、それ)

ちゅんちゅんちゅん(それ)

ちゅんちゅんかちゅん(それ)

ちゅんちゅんちゅんかちゅん

ちゅんかちゅんかちゅん

(あ、それ)

じいさま「こりゃあおもしろい

なあ、おちよん！はははは！」

つぎの日、じいさまがかえろうとすると、

おちよんがいました。

おちよん「じいさま、

おみやげは大きい

つづらがいいですか？

小さいつづらがいいですか？」

じいさま「わしは

としよりだから、

小さいのがいいな」

おちよん「じいさま、

いえにかえるまで、けっして

つづらをあけないでくださいね」



じいさまが、いえにかえって

つづらをあけてみると、

(キラキラキラ〜ン！)

じいさま「おお、ほほお！」

ばあさま「なんとまあー！」

中なかから金きん、ぎん、さんごに

あやにしき、まばゆい

たからがざっくざっくと

でてきたではありませんか。



ばあさま「ううん、どうして
大きなつづらを

もらってこないんだよ！

よし、わしがいって

もらってくる」

ばあさま「ふっ、ひっ、ふっ、

ひっ、ふっ…」

ばあさまは、じいさまに

きいたみちを、大いそぎで

はしっていきました。

そして大きなたけやぶの

いえにつきました。



(ブンブンブンブン！)

ばあさま「おーい、ここをあける！」

おちよん「じいさまか、ばあさまか」

ばあさま「ばあじや、ばあじや！」

おちよん「おはいりください」

おちよんは、ばあさまにかけたちゃわんに

おれたはしで、すなのごはんをだしました。

ばあさま「ふーん。わしはもうかえる」

と、ばあさまがいうと、おちよんがいました。

おちよん「ばあさま、おみやげは

大きいつづらがいいですか？

小さいつづらがいいですか？」

ばあさま「大きいのをくれ」



おちよん「ばあさま、
いえにかえるまで、
けっしてつづらを
あけないでくださいね」
ばあさまは、はやく
つづらの中なかがみたたくて
みたくてたまりません。
ばあさま「もう、
しんぼうたたらん！」



つづらの中なかからは、
へびやら、マムシやら、
ナメクジやら、
ムカデやら、
おそろしいものが
ぞろぞろとでて
きました。
ばあさま「ああ、
ぎゃああああー！」

ばあさまはおどろいたのなんの。

こしをぬかして、ほうほうのていで

いえまでにげかえりました。

それからばあさまは、

もうよくをはらなくなりました、とさ。

お
わ
り